

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	幼稚園における施設・空間の保育的価値の社会学的研究				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部こども学科・講師	氏名	甲賀 崇史
	研究分担者	所属・職名	静岡大学教育学部附属幼稚園・教諭	氏名	青山 昌子
		所属・職名	静岡大学教育学部附属幼稚園・教諭	氏名	瀬戸尾 和紀
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部こども学科・講師	氏名	甲賀 崇史

講演題目
子どもが身体と空間でつくりだす相互作用のマルチモーダル分析 一園庭の見晴台における「なんさい」をめぐる子ども同士のやりとりからー
研究の目的、成果及び今後の展望
研究の目的：園庭の見晴台における子ども同士のやりとりが、身体と空間でつくりだす相互作用であることを、マルチモーダルな記述(Fig.1)を用いて議論した。 保育学において、子ども同士のやりとりに関する先行研究は、伝統的には研究者が保育の自然言語を割り当て、エピソード単位による分析が行われてきた。または生態学的実在論に拠って立つ「身体知理論」を基礎にして、動作や行動を単位とした微視的な分析が行われてきた。それに対して本研究では、新たに身体性を強調した社会学的記述を採用した。すなわち、子ども同士のやりとりを、複数の子どもが互いに理解可能な形で行為をその都度生成していく方法として記述した。これにより、環境が備えた行為の実在性を探る仕方ではなく、あるいはイメージやシンボルといった表象概念を持ち出すことなく、複数の子どもが連鎖させる行為の仕方から子ども同士のやりとりを捉え直す方法と成果の一部を保育学に提示した。 成果及び今後の展望：「なんさい」事例における子ども同士のやりとりを、従来の身体知理論ではなく社会学的な構えで記述した結果、次の3点が明らかになった：①身体的ふるまいで相互作用をつくりだすことについて、子どもは発話に「間」をつくり受け手を指名したり、発話に連鎖する身体の動きや向きで確認したりしながら相互作用を構築・維持している。②空間的環境を相互作用の資源として意味づけていくことについて、見晴台のデッキが有する物理的な特性は、子ども同士が空間を立場表明の区切りにしたり舞台にしたりといった相互作用する資源であるが、同時にそこで可能な身体的ふるまいや参与する子どもの人数を制約しうる。③複数のモダリティの継起的連鎖を微視的に検討する方法を保育研究に採用する可能性について、①と②はマルチモーダル分析の採用により記述できた経験的事実であり、こうした記述の構えは子どものダイナミックな身体ふるまいと、子どもを取り巻く環境の多様さを統合的に捉えることを可能にしうる。 今後は、別の場面にマルチモーダル分析で記述することにより、環境としての見晴台がもつ保育的意味や発達の価値をより精緻化することが課題である。
【抜粋2】 04 ユ イ &#いっさい&じゃない\$わ%(0.2)+(0.4)β# &..振り返る& アオイ \$人差し指をたてる-->> スルガ %デッキ奥に移動--> & fig #fig4 +ユイをみる-->> βユイをみる-->> 05 アオイ アオ+\$↑ちゃん\$**だ(0.4)% -->+\$スルガをみる\$**ユイをみる-->> スルガ ↑奥側に移動-->> ユ イ -->\$ 06 スルガ ア*オ**ちゃん↑は* (0.6) * (0.8)β# -->↑ アオイ *.....振り返る*>>> -->*> ユ イ * 一歩下がる* & β人さし指をたてる-->>> fig #fig6   
Fig.1 マルチモーダル・トランスクリプトの例